第１回　佐呂間別川水系減災対策協議会　議事要旨

日時：平成 29 年７月 19 日（水）10:00～12:00
場所：湧別町文化センターさざ波　多目的ホール
構成員：佐呂間町長、湧別町長、北見市長（代理：防災危機管理担当部長）、網走地方気象台長、陸上自衛隊第 25 普通科連隊長、北海道警察北見方面本部警備課長（災害係長）、北海道警察遠軽警察署長（欠席）、遠軽地区広域組合消防本部消防長、北見地区消防組合消防本部消防長、網走開発建設部長（代理：次長）、オホーツク総合振興局副局長

≪議事内容≫

- 協議会の設立について
- 議事

①佐呂間別川水系の概要　（減災対策の取組状況について）
②幹事会報告　（減災対策の取組状況について）
③リエゾンについて　（出水期に向けた情報共有について）
④ホットラインについて　（出水期に向けた情報共有について）
⑤タイムラインについて　（出水期に向けた情報共有について）
⑥今後のスケジュールについて　（その他・情報提供）

≪首長等からの主な意見≫

（佐呂間町長）
平成 27 年、28 年の大雨を契機に、開建からポンプ車、道からは水中ポンプを借りられる事を知った。このように連携する取組は非常に大事である。河道内の堆積土砂や繁茂する樹木も洪水に影響するので川の維持も対応して欲しい。水中ポンプの稼働を手際よく行えるよう日頃から訓練する場を設けて欲しい。

（湧別町長）
芭露川では水位局と排水機場の位置が異なるため、現地では排水可能な状態の場合がある。排水機場の稼働の可否を判断できる責任者を現場に派遣して欲しい。

（陸上自衛隊第 25 普通科連隊長）
リエゾン、ホットラインは重要な局面で即決できるため、よい取組であると考える。それらを活用して、例えば被害状況に応じて避難用ボートを投入するなど迅速な対応ができる。今後タイムラインを含めて参加していきたい。

（網走開発建設部）
有事の際は、国からリエゾンを派遣する。ポンプ車の必要を伝えて頂ければ調達する。リエゾンについて、国では３０種以上の災害対策機械を所有していることを今後情報提供していきたい。遠軽町と湧別町の関係業者とは内水排除作業に係る訓練を実施しているため、次回からは佐呂間町に訓練の参加を連絡する。

（気象台）
　日雨量７０㎜以上の日数や１時間雨量３０㎜以上も増えている。気象台では今年度から警報級の現象が起きるおそれがあると積極的に配信している。また、７月４日からは大雨警報（浸水害）・洪水警報の危険度分布をホームページで閲覧でき、７月７日からは、大雨警報（浸水害）等の基準について、これまでの雨量だけの判定から指数を用いるなど、気象情報の改善に取り組んでいる。

（北見市防災危機管理担当部長）
　佐呂間別川は瑞穂・花園地区となるが、この地域は孤立の恐れや土砂災害の危険区域もある。避難を考えると佐呂間町へ協力もお願いする場合があるかもしれない。このような広域的な取組ができると考える。

（北海道警察北見方面本部災害係長）
　警察では防犯や交通安全の講話を実施しているが、併せて防災講話も駐在や地域の警察官を通じて行っていきたい。（気象台長からの意見）そのような啓蒙活動も重要と考える。

（北見地区広域組合消防本部消防長）
　今回の会議で他の機関の動きが分かった。非常に良い取組みである。

（遠軽地区広域組合消防本部消防長）
　国・道・市町が一本化した感じである。
　河川の情報以外にも道路の情報提供があれば、避難路の確保や要救助者の救出経路の確保につながる。

（オホーツク総合振興局副局長）
　河道内の堆積土砂除去や繁茂する樹木伐採については適切な維持管理を進める実施計画を策定しているところ。
　芭露川における排水機場の稼働可否についても、ホットラインの活用により現場判断できる職員の派遣が速やかにできる。
　次回の協議会では基本方針を策定する。そこに向けて、土砂堆積や樹木の流木化などの課題のほか、ホットラインをどの時点でどのような情報を伝えるかのルール作り、ポンプ車などの資機材の情報共有などを幹事会で諮っていく。

≪今後に向けて（事務局）≫
・水位周知河川以外の河川においては洪水氾濫危険区域図を順次作成する。
・水防資材の備蓄について佐呂間別川水系の河川敷地内にて検討していく。
・次回協議会では、各所管の水防資材の備蓄状況や要配慮者利用施設を想定氾濫区域図に重ねるなど“見える化”して課題を協議
・多機関連携型タイムラインは有効ではあるが作成には課題も多い事から、避難勧告着目型タイムラインと比較し幹事会で検討していきたい。